令和６年度　観音寺市施政方針

2月28日、定例市議会で佐伯明浩市長が令和６年度の施政方針を表明しました。市民の皆さまに理解を深めていただくため、要約して紹介します。

1月1日に発生した令和6年能登半島地震で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、今なお避難所や仮設住宅等での生活を余儀なくされる多くの被災者の方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。被災地の速やかな復興や被災者の方々の一日も早い安寧の回復のため、本市としてもできる限り支援していきたいと考えています。

また、翌2日に発生した羽田空港での事故では、生命を脅かすリスクが常に隣り合わせにあることを思い知らされました。新年早々に起きたこれらの震災や事故を大いなる教訓とし、気を引き締めるとともに、緊張感を持って市政運営に取り組んでいきます。

誰もが集い、交流できる にぎわいのまちづくり

新「道の駅」の整備については、昨年、基本構想を策定し、豊浜町のちょうさ会館北側を候補地としてお示ししました。現在はどのような機能を盛り込めるか、市民検討委員会やワークショップ等を通じて意見聴取し、これらを基に検討を進めています。今後は、基本計画を策定するとともに市内事業者等との意見交換を通じて、本市の核となるにぎわいの拠点として、さらには四国全体に通ずるゲートウェイとして広くご利用いただける施設の整備をめざして検討を進めていきます。

本市の重要なにぎわい・交流の拠点、文化・芸術の発信地であるJR観音寺駅とその周囲に広がる中心市街地については、観光客にきめ細やかな情報を提供できるよう観光案内所のあり方などを検討するほか、駅敷地内の動線の整理等に向けて、四国旅客鉄道株式会社と協議を行っていきます。

中心市街地へのアクセス向上に向けては、観音寺スマートインターチェンジ（仮称）の本体工事が、令和7年度末の竣工に向けて本格化します。中心市街地への人やモノの流入促進や市内経済の活性化、緊急輸送機能の確保をめざして整備するスマートインターチェンジは、地震発生時の有効なアクセス道としても大いに役立つ公共インフラであることから、引き続き周辺にお住まいの方々のご理解もいただきつつ、着実に整備を進めていきます。

観光振興やにぎわいの創出、市民の健康づくりを目的として設定するサイクリングコースは、観音寺市観光協会などとも協議のうえ、コース上にある店舗や観光スポットを掲載したパンフレットを作成したりイベントを開催したりして、利用促進を図っていきます。

施政方針の全文はこちらから

誰もが安全・安心に暮らせる やすらぎのまちづくり

能登半島地震の教訓を踏まえ、発生し得るあらゆる災害リスクに対して想定できるすべての対策を講じていきます。従来から取り組む施策をさらに充実させるとともに、避難所で使用する簡易ベッドやパーティションなど、備蓄物資のさらなる充実に努めます。また、消防施設を計画的に更新するとともに、自主防災組織が行う資機材の導入や防災訓練に対して助成を行い、市内各地域での備えを充足させます。さらに、防災重点農業用ため池に水位計と定点カメラを設置して現場確認の迅速化を図るとともに、移動系防災行政無線に先進的な技術を積極的に導入することにより、情報伝達の迅速化を図っていきます。

デジタル技術を用いた行政手続の簡素化にも取り組み、市政に関するお問い合わせに対して、より迅速かつ的確な回答を可能とするためにAIの活用を図っていきます。また、行政システムの標準化・共通化の推移を見据え、庁内での証明書等の発行に対応できるマルチコピー機設置など「書かない窓口」化の推進に向けた検討を進めていきます。

キャッシュレス決済の促進や域内経済の活性化に向け、紙おむつ等支給事業で銭形Kコインを用いての電子チケット交付を継続するとともに、さらなる活用拡大を進めるための調査研究をしていきます。

2050年までに市域の温室効果ガス（二酸化炭素）排出量を実質ゼロにすることをめざす「ゼロカーボンシティ宣言」の実現に向け、本庁舎に太陽光発電設備を増設するほか、令和6年度に購入する公用車に電気自動車を採用し、脱炭素化の取り組みを加速していきます。また、ゼロエネルギーハウスの普及促進を図るため、国や県に合わせて補助制度の明確化を図るとともに、40歳以下の申請者には20万円を上乗せし、若い世代の経済的負担を軽減します。さらに、民間活力についても積極的に導入していきます。

誰もが学べ、活躍できる ときめきのまちづくり

豊浜地区認定こども園の開園により、観音寺地区、大野原地区と合わせてすべての地区で公立認定こども園が整備されました。保護者ニーズに柔軟に対応するために引き続き就学前教育・保育体制の強化に努めていきます。

凪瀬町の観音寺港埋立地に整備を予定する第2運動公園（仮称）は、サッカーやラグビーなどで使用する多目的グラウンドの一部や進入路、管理棟や駐車場の整備等をはじめとして令和6年度から本格的な工事に着手します。芝生広場も兼ね備えた施設が完成すれば、市民にとって健康増進や憩いの場となるだけでなく、市外利用者との交流施設としても活用が期待できることから、その実施にあたっては利用者満足度の最大化に努めていきます。

令和６年度の重点施策

誰もが集い、交流できる にぎわいのまちづくり
- 三大プロジェクトの推進
- スマートインターチェンジの整備
- 市内中小企業の振興支援
- 優良企業の誘致の推進
- 高屋神社本宮付近トイレに環境配慮型排水再利用処理装置を設置

誰もが安全・安心に暮らせる やすらぎのまちづくり
- 移動系防災行政無線のデジタル化
- 「書かない窓口」の推進
- 市公式LINEにチャットボット機能構築
- 子育てアプリの導入
- 移動販売業者を通じた買い物支援
- 大野原町五郷地区でデマンド交通の実証実験開始

誰もが学べ、活躍できる ときめきのまちづくり
- 豊浜幼稚園旧園舎の解体と豊浜認定こども園プール棟の建設
- 市内産・市内事業所が製造加工した食材を使用した給食の提供
- 介護予防教室や移動・外出支援
- 第２運動公園（仮称）の整備
- 観音寺南公民館と西公民館統合のために地質調査等を実施

観音寺スマートインターチェンジ（仮称）本体工事が始まります

問い合わせ先　建設課 スマートインターチェンジ整備室　☎２３－３９３５

観音寺スマートインターチェンジ（仮称）整備の主な目的

1	**救急医療**	事故や災害が発生し、市外医療機関に搬送しなければならない場合、速やかに搬送できます。高速道路は一般道と比べて信号がなく安全で、揺れも小さいため患者の負担軽減にもなります。
2	**災害・防災**	豪雨災害時、中心市街地の大半が財田川浸水想定区域に指定されています。国道11号などの主要道路が寸断された場合でも、復旧対応や物資供給のための迅速な支援が受けられます。
3	**物流・企業立地**	主要産業である農畜産業の農産品やパルプ・紙などの加工品の出荷時間と距離が短縮されます。さらに観音寺港三本松地区で分譲中の新たな工業団地への企業立地推進と雇用創出につながります。
4	**定住促進・観光振興**	市内観光地への案内が容易になるとともに、ほぼ全ての公共公益施設が高松道に約10分でアクセスできるようになることで、近隣市町との交流が活発になり年間約５万人の交流人口増加が期待されています。

大野原インターチェンジに加えて、新たな高速道路への接続道を整備するために、平成30（2018）年から準備を開始し、関係機関や周辺地域の皆さんとの意見交換を進めてきました。そして、３月から観音寺スマートインターチェンジ（仮称）の本体工事が本格的に始まります。

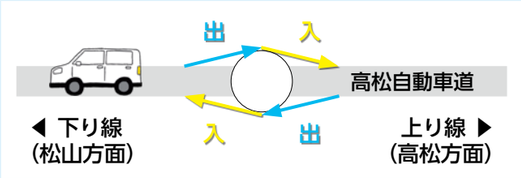
スマートインターチェンジとは？

スマートインターチェンジは、高速道路の本線やサービスエリア、バスストップなどから乗り降りができるように設置されるインターチェンジです。

通行可能な車両はＥＴＣを搭載した車両に限定しています。

上り車線（高松方面）の入口・出口、下り車線（松山方面）の入口・出口の４方向の利用ができます。

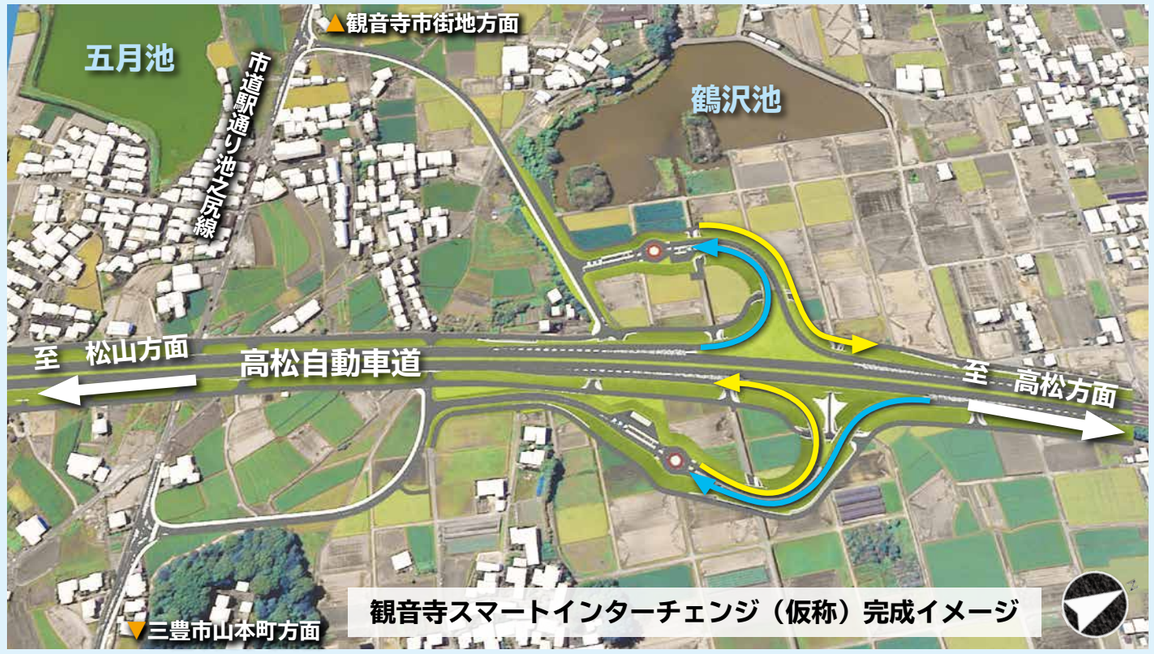
運用時間：24時間



今後の工事予定

観音寺スマートインターチェンジ(仮称)は、令和７年度末の供用開始を目標として工事を行います。

それに先立ち、インターチェンジに接続する市道の工事を先行して行っています。周辺住民の皆さん、周辺道路を利用する皆さんにはご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いします。



観音寺スマートインターチェンジ（仮称）完成イメージ